

7. 河川空間の現状

7-1 河川敷等の利用の状況

7-1-1 河川敷地の利用状況

平成 15 年度に実施した「沙流川水系河川空間利用実態調査」によれば、沙流川水系の年間河川空間利用者総数(推定)は約 3.1 万人で、平成 12 年度調査から約 8.6 万人の減少である。沿川市町村人口から見た年間平均利用回数は約 1.6 回となっている。

利用形態別では散策等が最も多く 51%を占め、次いでスポーツが 37%と続き、両者で 88%を占める。水遊びは 12%、釣りは 1%に満たなかった。

利用場所別では高水敷が 80%と最も多く、次いで水際が 12%、堤防が 8%と続き、水面の利用者は 1%に満たない。

平成 15 年度は平成 12 年度に比べ、河川利用者の年間推計値は 3 分の 1 以下に減少している。

利用形態別ではスポーツと釣りの利用割合が減り、その分散策等、水遊びでの利用割合が増加している。利用場所別では堤防の利用が減り、高水敷、水際の利用が増加している。

利用者数増加の原因として、土曜、日曜、祝日に曇りや雨などの肌寒かった日が多かったことがあげられる。

河川水辺の国勢調査(河川空間利用実態調査)による

区分	項目	年間推計値(千人)			利用状況の割合		
		平成10年度	平成12年度	平成12年度	平成10年度	平成12年度	平成15年度
利用形態別	スポーツ	6	58	12			
	釣り	2	9	0			
	水遊び	2	0	4			
	散策等	13	49	16			
	合計	23	117	31			
利用場所別	水面	0	0	0			
	水際	4	9	4			
	高水敷	16	92	25			
	堤防	3	16	3			
	合計	23	117	31			

河川水辺の国勢調査(河川空間利用実態調査)による。

図 7-1 沙流川の年間空間利用状況

7-1-2 高水敷の利用状況

沙流川は、広大な河川空間を有しており、特に高水敷は背後地の諸条件により、その地域のニーズに適応した利用がなされている。

沙流川の流域においては、軽種馬が基幹産業であり大規模経営がなされていることから、高水敷という広い空間を採草放牧地として大いに利用しているところである。また、沙流川流域の門別町の都市区域においては、自然のうるおいとやすらぎを得られる貴重なオープンスペースとして、広場・公園・緑地など多目的に利用されている。

沙流川での河川敷地としての利用状況は、表の通りである。

表7-1 河川敷地の占用状況（直轄管理区間）

単位：ha、下段（ ）：%

河川名	河川公園		水田耕作		畑 耕 作		採草地		放牧地		仮設建物		そ の 他		合 計	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
沙流川	2	21.5	20	8.9	-	-	66	64.0	31	93.0	-	-	83	9.8	202	197.2
		(11)		(5)				(32)		(47)				(5)		(21)

注) 平成16年12月22日現在

7-2 河川の利用状況

沙流川は、沿川住民の多様な要請に伴い、沙流川橋周辺の河川環境整備事業、二風谷ダム、平取ダム建設に伴う周辺環境整備構想等が進められており、また、鶴川・沙流川ペアライン構想や、日高町手づくりリゾート整備事業、門別サーモンパーク整備事業等の計画がある。

河川空間を利用したイベントとしては、富川地区のししゃもまつりや門別夏まつり、二風谷地区の「にぶたに湖水祭り」(二風谷ダム湖)やチブサンケ(沙流川、アイヌ文化の舟おろしの儀式)、平取町最大の祭りである沙流川祭り等が実施されている。また平取町ではアイヌ文化を紹介するアイヌ文化博物館、地域の歴史や自然・二風谷ダム等を紹介する沙流川歴史館には、町外から多数の観光客が訪れている。これら地域独特の観光資源を生かし、さらに体験学習も試行しながら、観光関連産業の発達と活性化を目指している。また、一般的な利用としては、釣り、散歩、ピクニック、レクリエーション等を主体に、自然豊かな渓流や施設整備されている箇所等が利用場所となっている。



せせらぎ公園



ししゃも祭り(門別町)



チブサンケ祭り(平取町)



二風谷アイヌ文化博物館(平取町)



釣り大会に集う人々(日高町)

出典：鶴川・沙流川物語(北海道開発局)

沙流川河川環境マップ

沙流川ダム建設事業所パンフレット(北海道開発局)